

# 平成 29 年度「全国学力・学習状況調査」における南丹市の結果について

南丹市教育委員会

「全国学力・学習状況調査」(小6・中3)は、児童生徒の国語、算数・数学の学力の定着状況を把握・分析することで、小学校・中学校での指導上の成果と課題を明らかにするとともに、その結果を個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善に活かし、児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として実施されています。

南丹市教育委員会では、南丹市の児童生徒一人一人に、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、未来に向かってたくましく生きる力を育成するために、一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進に努めています。市内の各学校においては、指導の工夫・改善を図る観点に立って、この「全国学力・学習状況調査」の結果を有効活用しています。

平成 29 年度の南丹市全体の調査結果をとりまとめましたので、その概要をお知らせします。本調査の内容は、教科に関する調査と質問紙による調査となっています。教科に関する調査は、紙面による限られた範囲の出題であることから、調査結果はあくまでも児童生徒の学力の一部であることにご留意ください。また、質問紙による調査は、普段の生活等に対する調査で、その回答結果からは、児童生徒の今の学習状況や生活の様子についてうかがい知ることができますので、併せてお知らせします。

## 【1】概要について

■対象学年	小学校 6 年生	中学校 3 年生		
■実施日	平成 29 年 4 月 18 日 (火)			
■科目・時間	国語 A・算数 A (各 20 分) 国語 B・算数 B (各 40 分)	国語 A・数学 A (各 45 分) 国語 B・数学 B (各 45 分)		
■出題範囲	第 5 学年までの学習内容	第 2 学年までの学習内容		
■内 容	教科に関する調査 及び 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 <教科に関する調査> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                     A : 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題                      B : 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題                 </td> <td style="width: 50%; border: none;">                     &lt;質問紙調査&gt;                      学習意欲、学習方法、学習環境、生活についての諸側面等に関する調査                 </td> </tr> </table>		A : 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題 B : 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題	<質問紙調査> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活についての諸側面等に関する調査
A : 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題 B : 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題	<質問紙調査> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活についての諸側面等に関する調査			

## 【2】南丹市の状況について

南丹市の状況を、南丹市全体の平均正答数と国の平均正答数との差で表します。

		小学校 6 年生		中学校 3 年生	
国 語	A	15 題	同程度	32 題	同程度
	B	9 題	同程度	9 題	同程度
算数・数学	A	15 題	同程度	36 題	同程度
	B	11 題	同程度	15 題	同程度

※基準は以下のとおりです。南丹市と国の平均正答数を比較し、1 題以上の差があるかないかで示しています。

南丹市と全国の平均正答数の差	- 1 題	0 題	1 題
	低 い	同程度	高 い

### 【3】各教科の概要について

#### <小学校6年生>

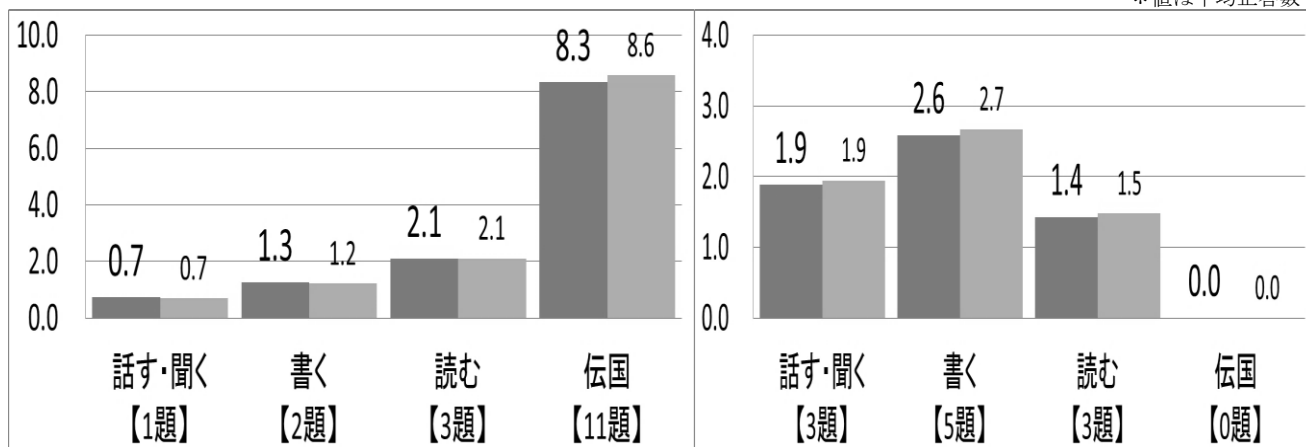
##### (1) 国語

国語 A

左：南丹市 右：全国

国語 B

\* 値は平均正答数



※伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

	全国の平均正答率よりも高かった主な問題	全国の平均正答率よりも低かった主な問題
国語 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や意図に応じて内容の中心を明確にして書くこと</li> <li>○手紙文の基本的な構成を理解し、それに基づいて後付けを書くこと</li> <li>○俳句で表現されている情景をとらえ、話し合いの内容に合う適切な表現を選ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと</li> <li>▲目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むこと</li> </ul>
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習活動の目的（動画を見ること）を通して、目的や意図に応じた適切な言葉遣いで話すこと</li> <li>○物語の具体的な叙述をもとに、理由を明確にして自分の考えをまとめること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえること</li> </ul>

○目的や意図を明確にして書く事柄を選び、書きたいことの方が伝わるよう、書く学習を計画的に行うことが大切です。その際、伝える相手を意識すること、丁寧語や尊敬語、謙譲語を適切に用いることができるよう繰り返し取り組むこともねらいとなります。また読書活動等により、様々な文章をもとに比べ読み・拾い読み・多読など効果的な読み方を経験することを通して、さらに表現力を高めることができます。

○物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめることに関しては、全国平均をやや上回る正答率でした。南丹市では、読書活動充実の取り組みを進めていますが、これまでの読書経験を踏まえ、叙述と自分の体験や他者の解釈を結び付けたり、他の作品と比べたりして読むことで、より豊かに想像する力を身に付けることができると考えます。叙述を相互に関係づけて読んだり全体を見通しながら読んだり等、理由を明確にして自分の考えをまとめることが大切です。

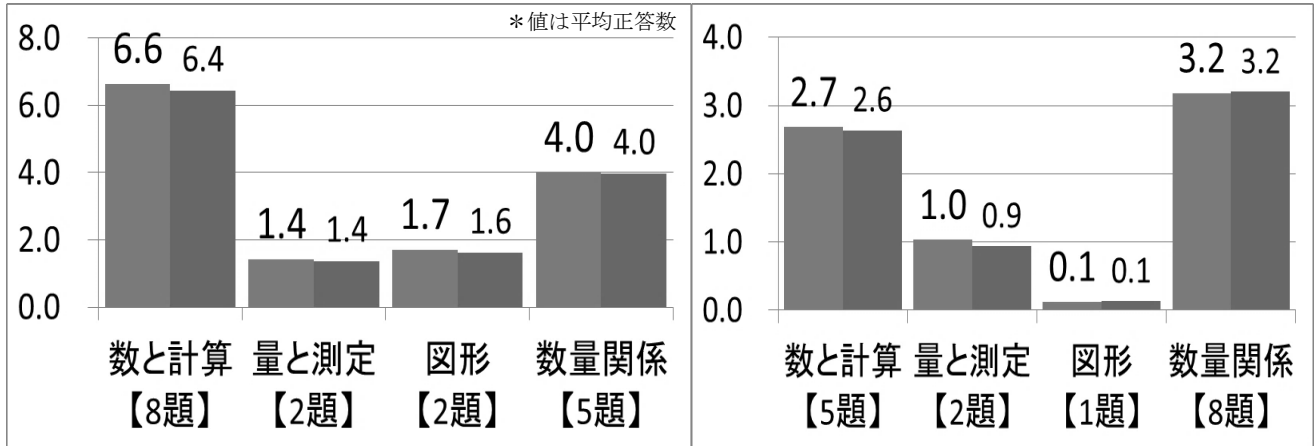
▲学年別配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることに関しては、正答率の高かった「読み」に対して「書く」こと、特に同音異義語の漢字の書きについては弱さが見られました。学習した漢字を繰り返し書いて練習することとあわせて、文中でのその言葉の使われ方や、熟語として漢字の持つ意味を理解し、各教科等や日常生活の様々な場面で実際に使用することで確実に習得することができるようになります。

## (2) 算数

算数 A

左：南丹市 右：全国

算数 B



	全国の平均正答率よりも高かった主な問題	全国の平均正答率よりも低かった主な問題
算数 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商を分数で表すことを理解すること</li> <li>○整数の乗法の計算をすること</li> <li>○正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲資料を二次元表に分類整理することを理解すること</li> <li>▲1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことを理解すること</li> </ul>
算数 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できること</li> <li>○示された条件を基に、適切な式を立てることができること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できること</li> <li>▲問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できること</li> <li>▲飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができること</li> </ul>

○小数や分数についての理解を深め、小数、分数の計算や四則混合計算、また除法の結果を分数で表すなど基本的な計算の技能は定着しています。また、示された条件を基に、適切な式を立てることもよくできていました。

○平面図形についての理解を深め、多角形や正多角形について知り、図形の形質を見出して、図形を調べたり構成したりすることができています。

○問題解決のために、測定値を平均する考えを用いて適切に判断し、示された方法を解釈し表現することができています。

▲「数と計算」は、問題によって差が見られ、基本的な計算の正答率は高いですが、数直線を扱った問題や計算方法の理解を問われる問題では弱さがみられました。

▲「数量関係」においては、資料から数量の変化を読み取る問題に弱さがみられます。

▲過去の分析も含め、数直線の扱いや割合（比）との関わりのある乗法の式の理解に弱さがみられます。

<中学校3年生>

(1) 国語

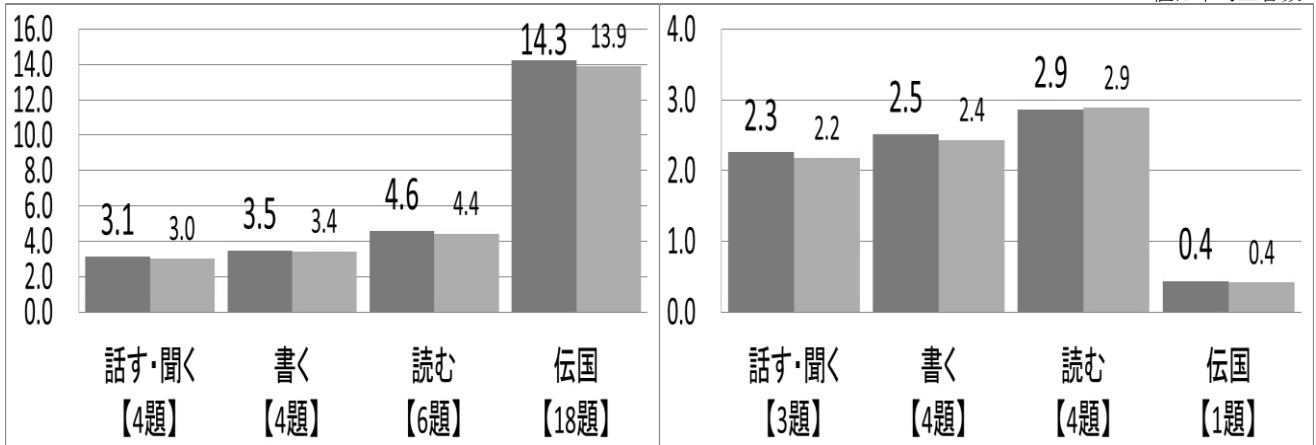
国語 A

左：南丹市

右：全国

国語 B

\*値は平均正答数



※伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

	全国の平均正答率よりも高かった主な問題	全国の平均正答率よりも低かった主な問題
国語 A	○場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること ○文脈に即して漢字を正しく書くこと	▲事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
国語 B	○目的に応じて、資料を効果的に活用して話すこと ○集めた材料を整理して文章を構成すること	▲場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解すること ▲表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと

○昨年度は、根拠を明確にして相手に分かりやすく書くことに課題がみられましたが、本年度は、書く力に関する問題について、比較的良好な結果が得られました。

○それぞれの場面や描写を個別に捉えるだけでなく、複数の場面や描写を関連付けて読む力が身に付いています。また、自分の考えの根拠を明らかにしながら、他の人に話したり、他の人の考えを聞いたりする指導が高まってきていることがうかがえます。

○「活用」に関する問題では、特に相手の反応を踏まえながら、効果的に資料を活用して話す力が全国に比べて高い結果が得られています。スピーチや話し合い活動の機会を増やすことにより、プレゼンテーション能力が高まっているように思います。これからも、自分の伝えたいことが聞き手に分かりやすく伝わるように工夫して話す力を向上させ、さらに、身に付けた表現力を他教科等の学習に生かす取組も効果的であると考えられます。

▲国語Aにおいては、特に、事象や行為などを表す多様な語句を、場面や状況に応じて適切に使うことに弱さがみられました。例えば、学校生活の中での話し合いなど擬態的な場面を想定し、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動を行うことが有効とされています。

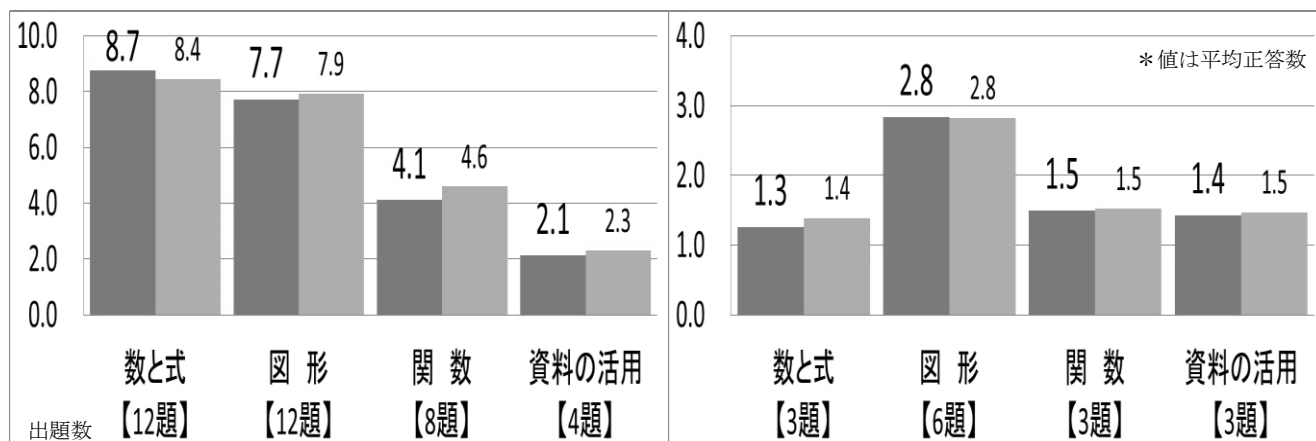
▲国語Bの「活用」に関する問題では、特に文学的な文章を読んだり、文学表現の仕方を捉えて自分の考えを書いたりすることに弱さがみられました。登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品に表れたものの見方など、どのように関わっているかを考え、文章の理解を深めるように指導する必要があります。また、自分の考えの根拠となる表現を文章全体の中から探し出すことのできる力が大切です。

## (2) 数学

数 学 A

左：南丹市 右：全国

数 学 B



	全国の平均正答率よりも高かった主な問題	全国の平均正答率よりも低かった主な問題
数 学 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整式の加法と減法の計算ができる</li> <li>○ 加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算の決まりに従って計算できる</li> <li>○ 分数の乗法の計算ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している</li> <li>▲ 与えられた比例のグラフから <math>x</math> と <math>y</math> の関係を <math>y=ax</math> の式で表すことができる</li> <li>▲ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している</li> </ul>
数 学 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる</li> <li>○ 事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 筋道を立てて考え、証明することができる</li> <li>▲ 付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる</li> </ul>

○正の数・負の数についての学習は、中学校に入学して最初に学習する内容ですが、加減乗除の混じった計算の順序は小学校で学習します。本市は全国に比べて、正しい順序で計算している生徒の割合が高く、小学校で身に付けた知識が着実に中学校で定着していることがうかがえます。

○カッコを外して文字の式の加減を計算する問題では、全国の平均正答率が約80%であるのに対して、本市の平均正答率が約90%と高くなっています。正解するには、正しくカッコを外すこと、文字の式の加減の仕方を理解していることが必要ですが、本市の生徒にはそのどちらも知識としてしっかりと身に付いていることが分かります。

○対称な図形は1年生で学習します。本市は全国と比べて、対称性を利用して図形を正しく移動させることができる生徒の割合が高くなっています。これは、観察や操作、実験を通して図形の性質や特徴を捉える授業を工夫して行っていることの結果であると考えます。

▲今年度も昨年度同様、関数領域に弱さが見られました。関数は、その種類に応じて各学年で学習しますが、2数の関係を数学的に表した「式」、2数の変化を数値で表した「表」、2数の変化を視覚的に捉えやすく表した「グラフ」については共通して学習します。この「式」「表」「グラフ」が表しているものを関連付けて理解することが必要です。

▲図形領域では、2年生で学習する合同な図形を証明することに弱さが見られます。図形の性質や図形が合同になるための条件等について、学んだことを活用できる知識の定着を図るためには、生徒が互いに考えを交流し、主体的・協働的に課題の解決を図る学習経験の積み重ねが大切です。

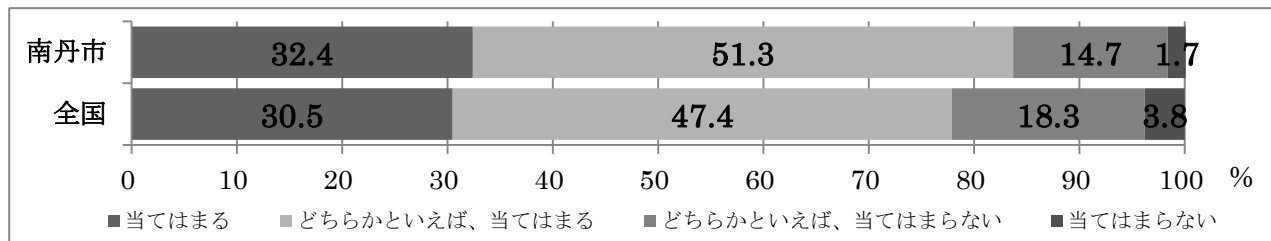
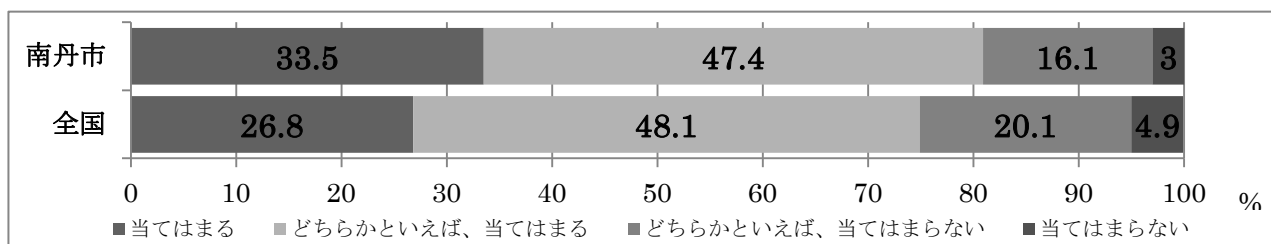
## 【4】質問紙調査について

本調査は、家庭生活全般、学校生活全般、授業や家庭学習への臨み方、国語学習・数学学習への思い等に関して、約90の質問項目がありました。ここでは、南丹市の結果と全国の結果を比較して顕著な差異がある項目について取り上げています。

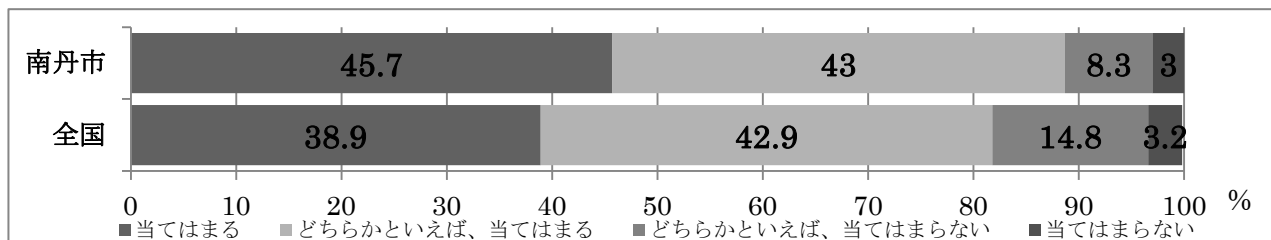
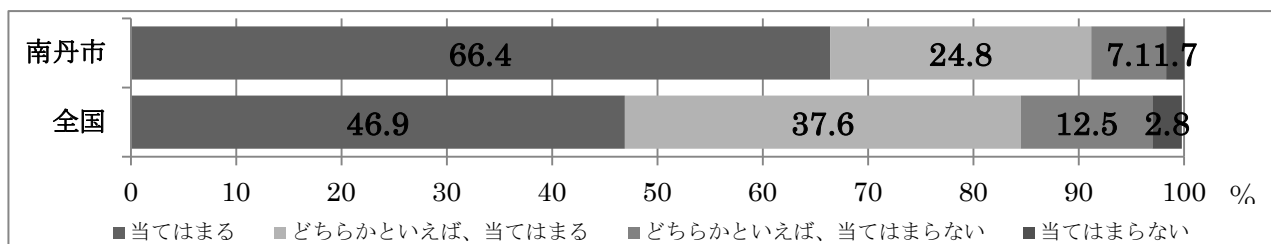
### (1) 本市の児童生徒の強み

< 上:小学校 下:中学校 >

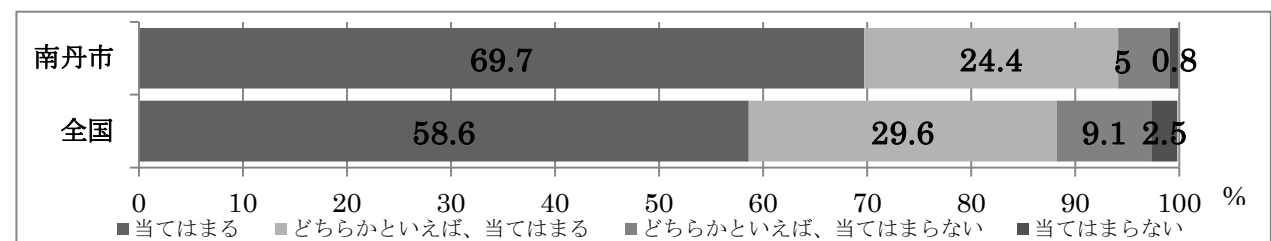
(ア) 授業では、先生から示される課題や学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた。

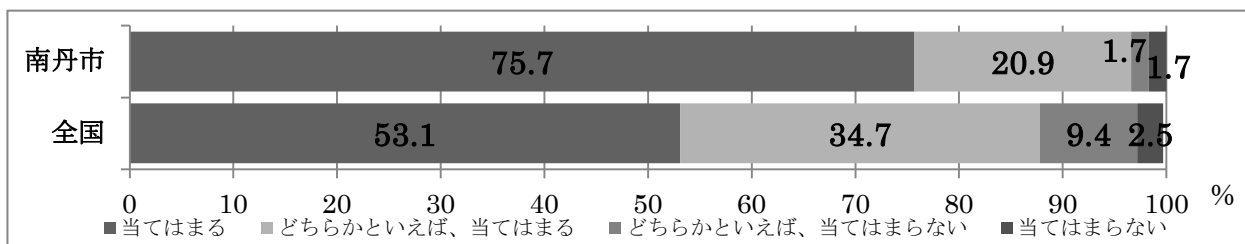


(イ) 授業では、児童や生徒の間で話し合う活動をよく行っていた。

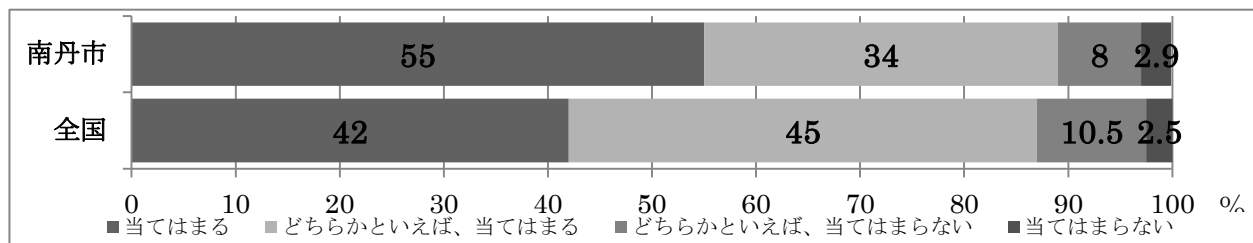
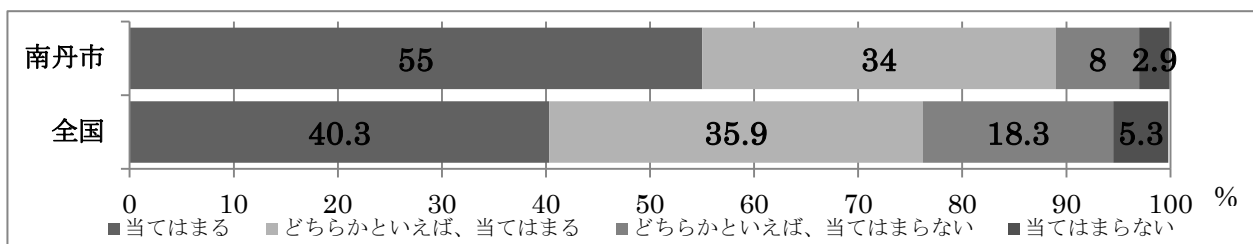


(ウ) 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

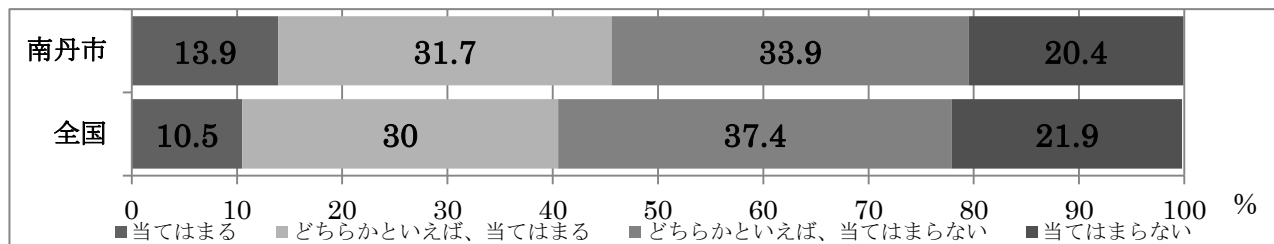
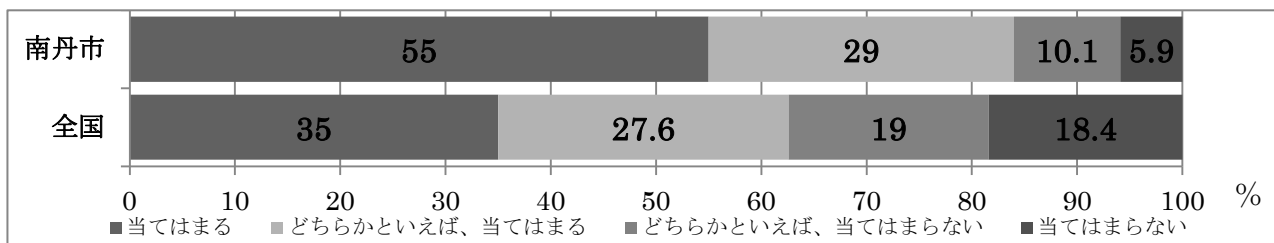




(エ) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



(オ) 今住んでいる地域の行事に参加している。

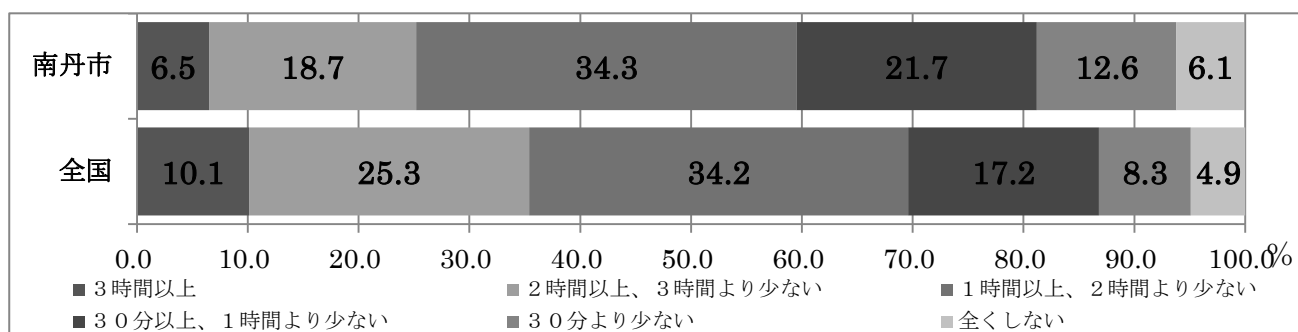
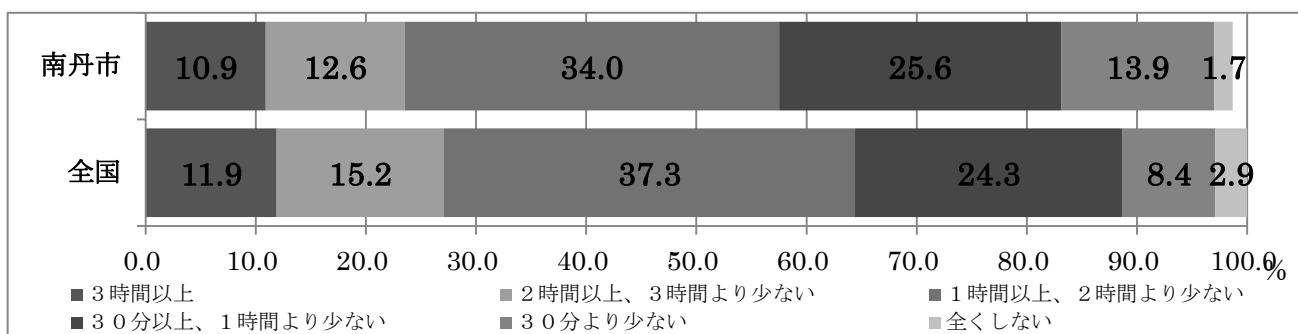


(ア) からは、児童生徒が、学習課題に対して意欲的に取り組んでいることがわかり、(イ) からは、授業の中で話し合う活動を積極的に取り入れていることが分かります。(ウ) (エ) からは、昨年度同様、教員による授業改善が進み、児童生徒が授業の最初の「めあての明示」と授業の終わりの「振り返り活動」をしっかりと意識して授業を行うスタイルが確立されていることが分かります。(オ) からは、地域の行事に積極的に参加している児童生徒の様子がうかがえます。

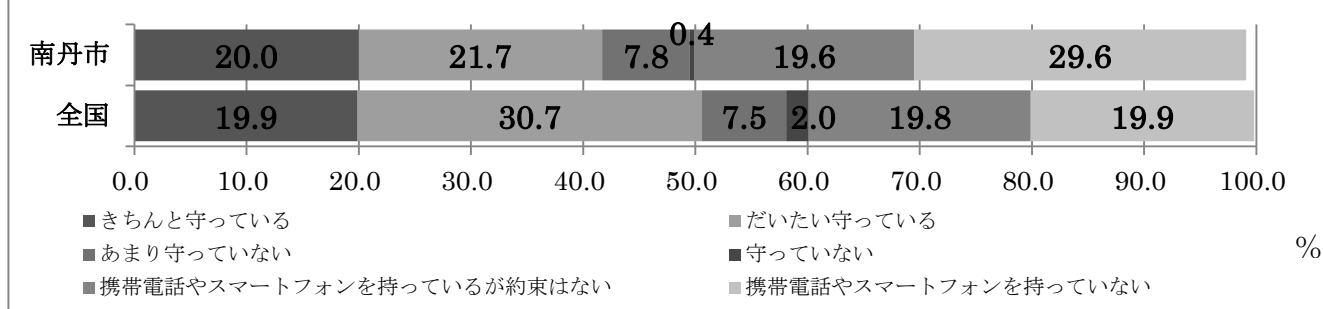
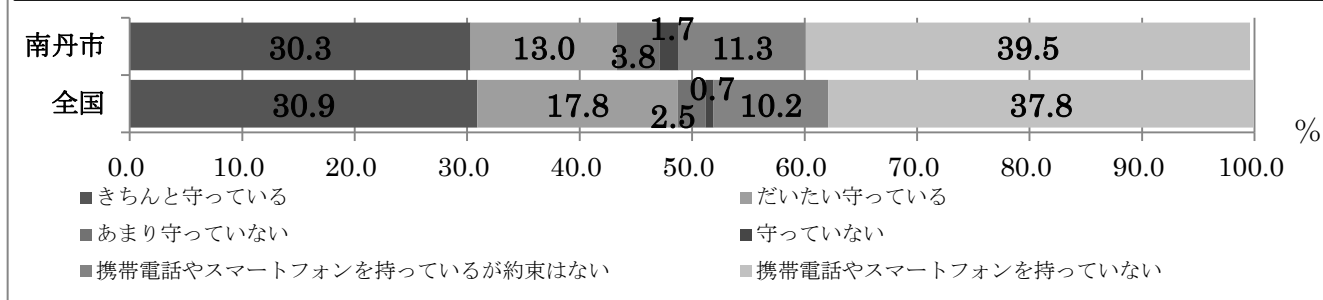
(2) 本市の児童生徒の弱み

< 上: 小学校 下: 中学校 >

(ア) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む)



(イ) 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



(ア) からは、小・中学校とも「30分より少ない」「全くしない」と答えた児童生徒の割合が全体の15%~20%と全国平均より高くなっており、家庭学習と授業を繋ぐさらなる児童生徒の学習意欲の向上が弱みです。

(イ) からは、携帯電話やスマートフォンの使い方について、「約束をきちんと守っている」「大体守っている」という児童生徒が全国平均に比べて低くなっています。

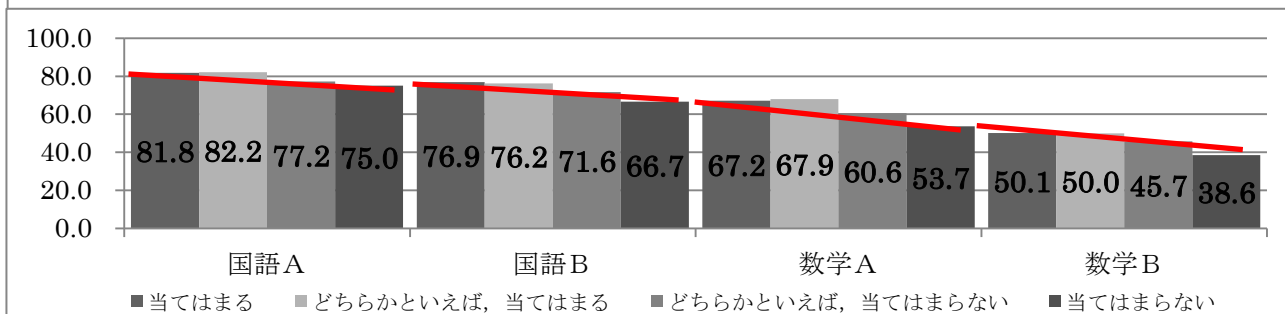
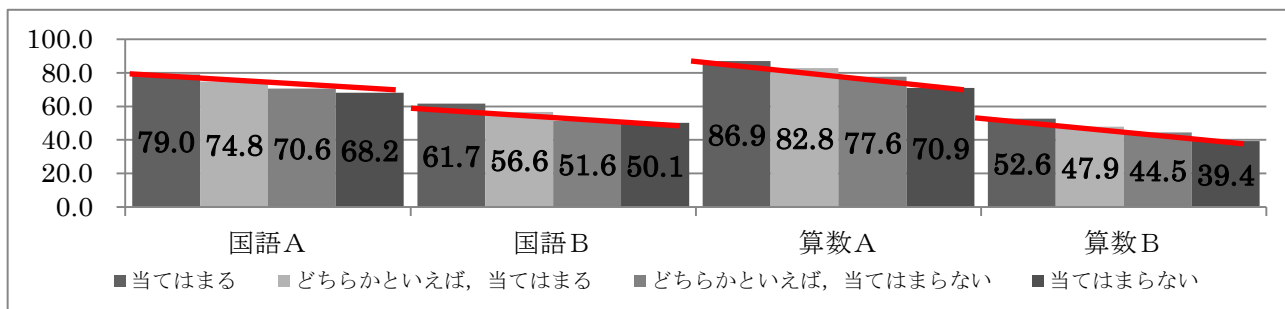
(3) 正答率と相関が見られた質問項目

正答率との間に相関が見られる質問事項を挙げています。普段の生活態度や習慣（学校生活、家庭生活）と学力の関係を示しています。

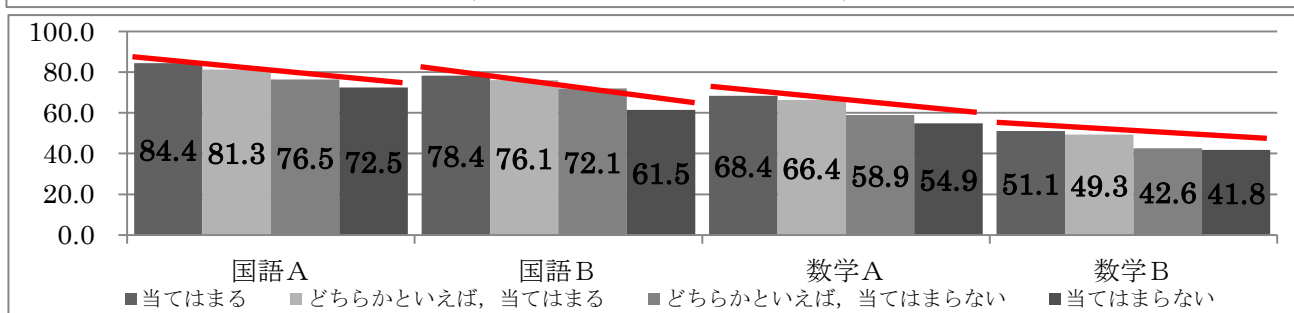
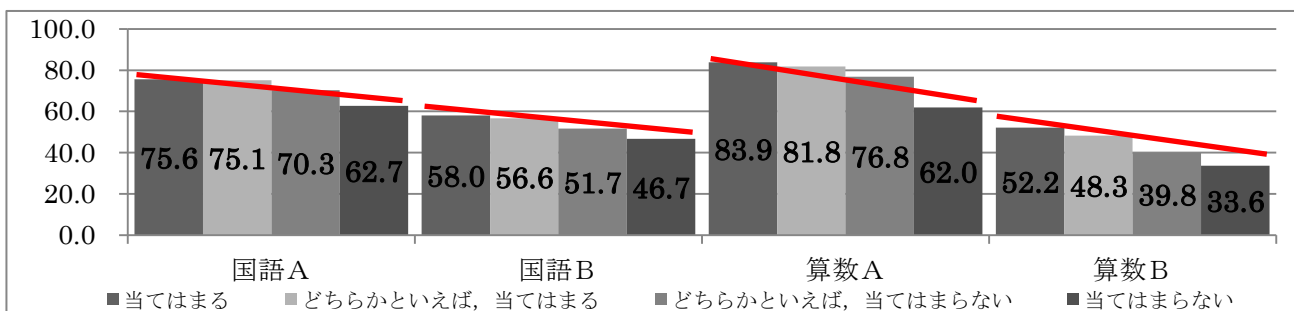
< 上：小学校 下：中学校 >

(ア) 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか





(イ) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分から考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



(ア) (イ) とも自分の考えや意見を発表することに関連した質問への答え方と学力の関係を表しています。自分の意見や考えを発表することに自信を持つ児童生徒ほど、また発表する際、聞き手にうまく伝わるように工夫する児童生徒ほど学力が高いことを表しています。

## 【5】子どもたちの豊かな学びと育ちのために

南丹市では、子どもたちの豊かな学びと育ちのために、主に次のような取組を進めています。

### (1) 中学校ブロックの取組

中学校とその校区にある保育所・幼稚園・小学校が1つの中学校ブロックを作り、その中学校ブロックの全ての教職員が合同で、子どもたちが健やかに育ち、確かな学力が身に付くよう、生活・学習等の様子、対応の仕方、指導方法等を交流したり、分かりやすい授業の進め方について考えたりしています。その成果は、今回の調査結果や質問紙調査の回答状況に顕著に表れています。これからも、南丹市の全ての子どもたちの豊かな学びと育ちのために、南丹市の全教職員で指導と見守りのバトンを繋いでまいります。

### (2) 市独自の学力診断テストの実施

小学校5年生で南丹市独自の学力診断テストを実施しています。このテストと、京都府が行う小4・中2の学力診断テスト、国が行う小6・中3の全国学力・学習状況調査によって、南丹市では小学校4年生から中学校3年生までの全ての子どもたちの学力実態を途切れることなく把握しています。各学校では、その結果をすぐに分析・交流し、これからの授業や指導の工夫改善に活かしています。

		1学期	2学期	3学期
南丹市学力診断テスト	小5			1月下旬実施
全国学力・学習状況調査	小6	4月下旬実施		
京都府学力診断テスト	中1	4月下旬実施		
京都府学力診断テスト	中2		10月下旬実施	
全国学力・学習状況調査	中3	4月下旬実施		

### (3) 家庭学習支援の取組

中学校3年生を対象に、家庭で国語・数学・英語の学習ができるよう、それぞれ特別に講義を収録し、ケーブルテレビで放映しています。講師は、南丹市立中学校の各教員です。テキストは事前に中学校で配布しています。この他、中学校ブロックごとに小中合同で「家庭学習強化週間」を設定したり、小中連携を図りながら家庭での学習の方法を示した「家庭学習の手引き」を作成・活用したりして、子どもたちの家庭での学習を支援しています。

## 【6】終わりに

子どもの豊かな育ちには健やかな心と体の成長が欠かせないことは勿論ですが、子どもたちが小中学校の学習内容を十分習得することは、中学校への入学や義務教育の出口となる中学校卒業後の進路を自身で切り拓くために極めて重要であると考えています。南丹市教育委員会といたしましても、各学校において今後より一層充実した教育が展開されるよう、教育条件や教育環境の整備等を進めたいと考えています。特に、ICT機器に関しては、計画的に各校への整備を進めており、来年度で南丹市内全校において各校1クラス分のタブレット端末の整備が終了します。今後とも、引き続きICT機器を活用した教育の一層の充実等により、子ども達の学習意欲や学力の向上、情報活用能力の育成に力を入れてまいります。

これからも引き続き市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。